

展開で日本を樹脂ウレタポリ

東京ライノ

東京ライノ  
 (東京都、緒方修一社長)  
 は壁や床用途の特殊樹脂「ライノライニングス・ポリウレタスプレー・コーティング」の内販売を開始した。アメリカのライノ・ライニングスが開発した硬化の速さと伸縮性、耐薬品、耐摩耗などの効果が期待されることに加えて、従来

補強塗装の工費と比べ最大で2分の1、工期を5分の1に抑えることもできる。

ポリウレタ樹脂は1980年代にプラスチック成形材として開発されたもので、欧米各国で特殊加工塗装として広まった。アミン化合物とポリイソシアネート化合物をスプレীগンで衝突・混合させて化学反応でポリウレタが生成される。建築物の支柱や内・外壁、天井などに2mmほどの厚さで噴射コーティングすると、大きな地震や爆発時にも特殊ポリマーの衝撃吸収により室内ごとに防護される。

木材に塗布することで建築現場の敷鉄板の代替ともなるため、人の手で設置が可能となるという。

製品は汎用性の高い「タフ・グリップ」、屋根専用の「エコ・コート」、高湿度や低温など過酷な屋外環境でも施工可能で300%の伸び率を備える「エクストリーム」、耐薬品性能に優れた「ハイ・ケム」の4種類を日本市場向けに投入する。

施工に関しては本社、支店による講習終了後に施工技術認定証を発行し、塗装剤、熱処理用機材、ホース等の必要資材を搭載した4トントラックを貸し出す。全国15社の代理店網を設けており、初年度は5億円の売り上げを目指す。